

消費者庁食品表示企画化が中心となり、サプリメントの機能表示が現実味を帯びてきた。アベノミクス第三の矢、成長戦略のひとつである「100年計画」も、2015年春、エビデンスをもつサプリメントの中核「Functional Oligo」を堂々とつけた製品が市場に流通する公算が大きい。しかし一方で、医薬品まがいの表示に対して薬事法違反、景品表示法の取り締まりは止まらない。つい先日、トマト成分を含むサプリメントが「寝ている間に勝手にアイエット」等と記載して販売していたサプリメント販売会社へ、記載内容に根拠がないと指摘して、再発防止を求める措置

最初に着目したのは乳酸菌だ。2012年に乳酸菌がインフルエンザに有効だという情報がメディアで多く報道され、一部スーパーではヨーグルトが品切れになった。その中でも特に、明治が発売した機能性ヨーグルト「ロー」は爆発的に売れた。

さらに今年はいよいよ純粋に各社が自社の乳酸菌の抗インフルエンザ効果や抗ウイルス効果を調査研究し続々と論文を発表。今年11月には、インフルエンザ需要を狙い、キリン、日本乳牛、カゴメ、チヤヤスなど多くの乳製品メーカーから乳酸菌関連の新商品が出ている。

そんな中、原料メーカーでもあるキティでは、健康な乳幼児の腸内に住み着く乳酸菌の中から、免疫バランスの改善に優れたクリスパタス菌KT-11(ラクトバチルス・クリスパタスKT-11)を発見し、現在は原料とあわせ商品の提案も行っている。

クリスパタス菌KT-11は通常分娩で生まれた子供

臨床現場に生かしたい エビデンス確かなサプリメント その1

2015年機能表示スタート 一方で根拠なき表示製品に 「取り締まり強化」

ウムにて抗インフルエンザ作用を有することを発表。特にキティが展開するクリスパタス菌KT-11はすべて国内産の原料を使い、また、培養で用いる培地に関しても、合成培地はもちろんアトピーの元ともなる乳や大豆も一切使用しておらず、高い安全性が確認された乳酸菌といえよう。

命令を出した。この例に限らず、効果へ対する根拠について、明確に回答ができる業者がどの程度いるのか。今回の件は、氷山の一角であろう。医療従事者がこのような根拠なきサプリメントを取り扱わなければならない。きちんと科学的根拠のある成分を含み、実際に体感や効果のあるサプリメントを取り扱う必要がある。そこで本紙JHMでは連載で、大学や病院等と連携しエビデンスをしっかりと取り続けているサプリメントを掲載していく。医療機関だからこそ信用あるエビデンスをもつサプリメントの情報を収集し、臨床現場に生かしてもらいたい。

が帝王切開で生まれた子供と比較しアレルギーが少なくという海外の論文を元に研究を進めたところ発見された乳酸菌のひとつだ。アトピー性皮膚炎や、アレルギー性鼻炎の改善、さらには腸内免疫の増強等に効果がある。これまでに日本酪農科学会シンポジウムや日本畜産学会などで発表された。FOOD Style、New Food Industry、食品工業などの専門紙にも論文を掲載している。

2013年9月には日本酪農科学会シンポジ

研究の歴史古く、
信頼性高いエビデンス
多い乳酸菌関連

